



ボランティア Volunteer

VOL.133



ボランティア 第133号

発行 2023年12月31日
発行所 社会福祉法人イエス団賀川記念館
発行者 馬場一郎

社会福祉法人イエス団賀川記念館
〒651-0076 神戸市中央区吾妻通5-2-20
Tel 078-221-3627 Fax 078-221-0810
E-mail office@core100.net
HP <http://core100.net>



賛助会費・寄付金のお願ひ

賀川記念館の事業は皆様によって支えられています。

賛助会費・寄付金を下さった方には寄附控除制度が適用されます。

賛助会費

【個人】 一口 1,000円より

【団体】 一口 10,000円より

寄付金

何円からでも可能

振込先

【ゆうちょ銀行】 口座番号：01140-8-3721 社会福祉法人イエス団賀川記念館

賀川記念館は以下の事業を行っています。

- ①地域福祉事業（天国屋カフェ／外国にルーツをもつ子どものための学習支援教室「はいず」／その他）
- ②福祉教育事業（ミュージアム／総合研究所）

賀川記念館マルシェ開催



■賀川記念館マルシェ(二〇二三
年)

去る、二〇二三年一月一日(土)に賀川記念館四階を会場に「賀川記念館マルシェ」が開催されました。来場者、スタッフを含め約三五〇名が賀川記念館に集まりました。賀川記念館マルシェは「賀川記念館フェスティバル」の形を変えたものです。コロナ禍の影響により、賀川記念館マルシェとして形を変えての再出発となりました。今回からは賀川記念館と関係の深い福祉施設やNPO法人、地域の団体などにお声をかけて、マルシェ方式(フ



ランス語で市場の意味。個人単位やそれに近い規模の業者が出店)で実施することになりました。団体の独自グッズをはじめ、のみの市を行う団体など多種多様な商品が並びました。またステージコーナーでは紙芝居や、音楽や遊び歌の時間、神戸市立布引中学校の吹奏楽部の演奏などがありました。とても充実した時となりました。また団体の交流も行われ、新たなつながりと、今後の連携を期待

「賀川記念館マルシェ」は「賀川記念館フェスティバル」(二〇一九年〜二〇一九年)より形を変更したもので、「賀川記念館フェスティバル」は「賀川記念館バザー」(一九六五年〜二〇〇七年)から数え、五四回を数えるイベントです(コロナの影響で、五三回で停まっています)。今回は、「賀川記念館マルシェ」の歴史を遡ってみたいと思います。



賀川記念館バザー (2007年)

■「賀川記念館バザー」(一九六五年～二〇〇七年)

賀川記念館のバザーは「開館三周年記念バザー」として一九六五年に開始されました。賀川記念館内全てを用いて、「蚤の市」を中心に大々的に開催されていたようです。『ポランティア』一九六五年一月月号によると「開館三年を記念して催された当館最初のバザーは、去る一月六日(土)・七日(日)の二日間にわたって行われたが、秋晴れに恵まれて、予想をはるかに上まわる二、二〇〇人の来館があった」と書かれています。来場者数だけを見ても、大規模なイベントであったということがわかります。「準備をしていた食堂部門でも、最後の日にはとうとう悲鳴をあげてストップしてしまっ

た」と記載されています。

今井鎮雄委員長(元イエス団理事長)をはじめとする実行委員をはじめ、二二〇人に及ぶポランティアが関わる大規模なイベントだったと想像できます。会場は賀川記念館全体を使い、蚤の市、食堂、展示コーナー、ゲームコーナーなど様々な催しがなされていたようです。「特別賛助出演として、池田昭とピアノ、クインテット・宝塚歌劇団・手品の安田天晴・ウエスタンバンドの倉田芳勝兄と大塚一家・デザインの高合氏・ラジオ関西およびYMCAのご好意に感謝します」と記されているところを見ると、多くの方の協力があったことがわかりま

す。翌年一九六六年の『ポランティア』にも当年のバザー報告がなされていますが、来場者数は二日間通して二、三〇〇人であったという。ポランティアにも地域の婦人会や中学生ポランティアがいた記載がされています。地域を巻き込み賀川記念館のバザーが行われていたことがわかります。出し物としても「神戸市消防隊の第演奏会、腹話術、奇術、フォークソンググループ、神戸青年合唱団の方達のコーラス」があり、「ドラ寿司、即席のつぼ焼き、お好み焼き、たこ焼き」などが振舞われていたといわれています。

六六年の謝辞として「チケットデザインの落合氏、ラジオ関西によるバザー案内・スポーツ、YMCA、灘神戸生協家庭会、その他本当に多くの人たちの温かいご支援ご協力の賜物」があったと記されています。

が、賀川記念館のバザーは地域の方々をはじめ、様々な企業をも巻き込んだ一大イベントでした。当時のことを知る人によると、フエスティバルが近づく関係者は賀川記念館に集い、様々な作業に励んだといいます。時には、その作業は深夜に及ぶこともあり、合宿のように泊まり込む人もいたそうです。館内の職員(賀川記念館、友愛幼稚園、本部)をはじめ、様々な方がポランティアとして関わっていたということを聞きながら、当時の熱気を感じています。

「賀川記念館マルシェ」の元を辿れば、一九二二年より賀川らが開始した古着市に遡ります。古着市は一九二二年(大正十一年)より開始したと記録に残っています。『神戸イエス団年報』(昭和四年二月)当時の様子が描かれています。「十二月上旬より書状または口頭で依頼し、恵興品の集中に盛力した」と記載されています。古着市の開催をす

るために、日本全国、また世界に向けて案内を出していたことには驚くばかりです。その声に応えるように古着は、アメリカや東京、広島、京都、大阪などから送られてきたといえます。また参加者は、三五〇名程度で、二百五十人が思いおもいの買い物に秩序よく午後五時近くに終

ます。賀川記念館のバザーは地域の方々をはじめ、様々な企業をも巻き込んだ一大イベントでした。当時のことを知る人によると、フエスティバルが近づく関係者は賀川記念館に集い、様々な作業に励んだといいます。時には、その作業は深夜に及ぶこともあり、合宿のように泊まり込む人もいたそうです。館内の職員(賀川記念館、友愛幼稚園、本部)をはじめ、様々な方がポランティアとして関わっていたということを聞きながら、当時の熱気を感じています。

「賀川記念館フェスティバル」(一九二二年)「賀川記念館フェスティバル」(一九二二年)「賀川記念館フェスティバル」(一九二二年)



上 古着市
下 友愛セール (2006年)



わった。」と記載されています。当時のニーズの高さを感じます。

一九六三年に「賀川記念館」が建築されてからも、古着市は開催されていたといえます。一九六三年の『ボランティア』によると、「イエス団名物の一つ『古着市』が、賀川記念館によって引きつがれ、神戸Y M C A・灘神戸生協婦人部・神戸イエス団教会婦人部の協力のもとに行われた」とあります。また「開催を待ちきれず、一時間ほど前より、待っていた人々もあったが、招待者一五〇人に対して、来館者実に二五〇人に達するという人気であった」と記載されています。賀川豊彦らが開いた古着市の働きが引き継がれていたということです。

一九七七年には古着市は「友愛セール」と名前を変更されますが、旧賀川記念館が閉館する二〇〇七年二月まで行われていました。賀川記念館建て替えと共に友愛セール(古着市)の幕は降りました。その分「賀川記念館フェスティバル」の盛り上がりがあったということでしょうか。「古着市」が「賀川記念館フェスティバル」に合わさっていくこととなりました。

■「賀川記念館フェスティバル」(二〇一〇年～二〇一九年)

「賀川記念館フェスティバル」と称されたのは、賀川記念館が再建されたからの二〇一〇年からです。(仮設時代は休止していました)。「ボランティア」(二〇一〇年二月号)には「第四回賀川記念館フェスティバル」の様子が書かれています。再建に伴い、規模を縮小し、同時に名称も変更されたと記録されています。「賀川記念館バザー」からは規模を縮小したものの、約七〇〇名の来場者があったといえます。変わらず、地域の方々に愛され、多くの方が来場してくださっていたということでしょう。蚤の市や友愛食堂などが実施され、地域の人々が集うイベ



ントであったという様子がわかります。また賀川記念館のバザーの時に変わらず、多くの方の協力をいただきながらの実施であったことが記録されています。

二〇二〇年、新型コロナウイルスの影響により、「賀川記念館フェスティバル」は開催を見送らざるを得なくなりました。これまでのつながりがなくなってしまうのではという恐怖感がありました。ただ、賀川記念館マルシェ当日には予想を超える方が来場してくださりました。「古着市」、「賀川記念館バザー」、「賀川記念館フェスティバル」、「賀川記念館マルシェ」と時代に合わせた名称や開催方法は変化しています。しかし、その精神は依然変わっ



上 賀川記念館フェスティバル (2013年)
下 賀川記念館フェスティバル (2016年)

ていません。かつて、賀川豊彦はこの地域の人々と共に生きる決意し、セトルメント活動を始めました。それ以来、賀川記念館は地域に支えるための働きを続けてきました。人々が賀川記念館に集い、繋がり、共に生きていくことを実践してきました。困りごとや悩みを聞き、共に考え、共に打開策を模索してきたのです。これからもその働きは変わらない、そう思われる一日でした。

賀川記念館が地域に開かれた場所となるため、また地域の方々となる働きを続けていきたいと思えます。今後も変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

ボランティアのご案内

当館の活動は皆様のご支援により成り立っております。賛助会費や寄付金によるご支援はもとより、多くのボランティアさんにお助けいただいております。感謝申し上げます。

現在「天国屋カフェでの運営スタッフ」、「はいずの学習支援ボランティア」「ミュージアムの軽作業」などはボランティアさんにお手伝いいただいております。常時ご支援やボランティアを募集しております。

お気軽にお問い合わせください。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

賀川記念館マルシェ 協賛金のお礼

この度の「賀川記念館マルシェ」には個人4件、団体26件の協賛金をいただきました。感謝をもってご報告いたします。今回の協賛金及び収益は、賀川記念館につながる子どもたちのために使用させていただきます。(賀川記念館「外国にルーツをもつ子どもの学習支援 はいず」、多機能型児童発達支援 賀川記念館くじらぐも、児童発達支援くっく、友愛幼児園)。

みなさま、ご協力ありがとうございました！！

※お名前が抜けている場合はお手数ですが、賀川記念館までお知らせください。(2023年12月1日現在。敬称略/順不同)

<個人>

篠原幸子、祐村明、佐伯政子、上内鏡子

<団体>

株式会社チャイルド社神戸営業所、株式会社チャイルド社コンピューター部、株式会社ディー・オー一級建築士事務所、株式会社トータルロジシステム、株式会社多い夢、株式会社司商会、村田建設株式会社、どりーむ、株式会社フレーベル館、寿司清たつ、中本商店、伊藤荒物店、山倉精肉店、株式会社ひかりのくに、鳥舟商店、福田商店、フルーツながお、日三自治会、吾妻ときわ会、まつもと商店、九州理容、吉野建設株式会社、武田商店、神戸ハーバー歯科、マリンハート薬局、きむらクリニック



上 ステージ (米田和正さん)

今回の「賀川記念館マルシェ」には賀川記念館につながりのある方が出店していただきました。また、天国屋カフェも出店しました。

- ・地球屋本舗 (NPO 法人 one villege one earth)
- ・NPO 法人 Birth 神戸
- ・ほっとすてーしょん (NPO 法人中央むつみ会)
- ・吾妻婦人会
- ・中原ストア
- ・鏡子のひとりフリマ

また、ステージの出演者にも多くの方にご協力を賜りました。

- ・伊奈垣圭映 (紙芝居、折り紙)
- ・友愛幼児園の先生たち (パネルシアター)
- ・米田和正 (歌って遊ぼう！)
- ・神戸ゴスペルビジョン×三音小町 (ゴスペルとフルート)
- ・布引中学校吹奏楽部 (ブラスバンド演奏)



↑施設紹介のコーナーとして、社会福祉法人イエス団の施設の紹介コーナーもありました。手作り、各施設を紹介していただきました。

「賀川記念館フェスティバル」は「賀川記念館マルシェ」として形を変えて開催します！

賀川記念館マルシェ

2023.11.11 SAT
10:30~15:00
会場：賀川記念館 4階

入場無料

出店コーナー 地球屋本舗、NPOなどが出店します！軽食、飲み物、雑貨販売などを兼ねます。

ステージコーナー ミニコンサートや子ども向けの出し物があります。大人も子ども一緒に楽しみたいですよ。

展示コーナー 賀川記念館につながる子どもたちの作品を展示します。賀川記念館の日々の活動を振り返ってください。

※賀川記念館マルシェの収益は、賀川記念館につながる子どもたちの活動に使用します。

①主催(企画) 賀川記念館
②共催(協力) 友愛幼児園、NPOなど
③協賛(協力) 外国にルーツをもつ子どもの学習支援「はいず」のために、賀川記念館くじらぐも、「児童発達支援くっく」のために

〒650-0001 神戸市中央区東川崎町1丁目1-1
賀川記念館マルシェ実行委員会 (賀川記念館)
〒650-0001 神戸市中央区東川崎町1丁目1-1
TEL 078-221-2527 E-mail info@hokokai.com

天国屋カフェ 軽食、おかし、ドリンク
*完全無糖

吾妻婦人会 ぬいぐるみ、エコバザー

Birth 神戸 グッズ、雑貨

地球屋本舗 フェアトレード商品

ほっとすてーしょん パン、クッキー

中原ストア 野菜、おかし、雑貨

鏡子のひとりフリマ 雑貨など

出店コーナー 軽食、お菓子・雑貨などを販売します。

ステージコーナー

- 10:45~11:15 絵本の読み聞かせと折り紙
- 11:30~12:00 パネルシアター
友愛幼児園の先生たち
- 12:45~13:15 歌って遊んで!
- 13:30~14:00 ゴスペルとフルート
神戸ゴスペルビジョン×三音小町
- 14:15~14:45 ブラスバンド演奏
布引中学校吹奏楽部

展示コーナー 賀川記念館につながる子どもたちの作品が展示されます。また、会場の飾り付けにも子どもたちの絵や作品があるかも!? 日頃の子どもの様子が伝われば嬉しいです!

展示コーナー 子どもたちの作品が会場に!

※賀川記念館に駐車場はありません。
※内容は都合により変更になる場合があります。ご了承ください。



多機能型児童発達支援 賀川記念館くじらぐも

賀川記念館くじらぐもが開設され、早くも九ヶ月が経とうとしています。

地域に住む子どもたちの育ちを願いを持って、日暮通六丁目に拠点を移しました。多くの方のお支えをいただきながら、子どもたちと向き合う日々を過ごしています。

「賀川記念館くじらぐも」は賀川記念館の活動として、未就学児十八歳までの子どもを受け入れる「多機能型児童発達支援事業」としてリニューアルしました。未就学児の療育も開始し、支援の幅も広げました。現在数名の未就学児と一緒に関わりながら、各々に必要な繋がりを探りつつ、日々を過ごしています。

これまで就学児童の支援の中で生まれた繋がりもあり、関係機関からの紹介で利用する子どももいます。引き続き、「くじらぐも」とつながる各関係機関の皆様と連携していきたいと思っています。

現在、未就学児と就学児童を合わせ、約二十名の児童が在籍しています。また七名の職員が子どもたちと共に過ごしながら、療育を行っています。今後も未就学児から十八歳までの子どもの成長を見守りながら、ご家庭や地域と連携し、子どもたちの豊かな未来に向かって関わってきたいと考えています。

そして、賀川記念館の地域福祉活

動と連携しつつ、制度の隙間に着目して、活動を行っていきたくいです。始まったばかりではありますが、今後ともお支えをいただけたら幸いです。

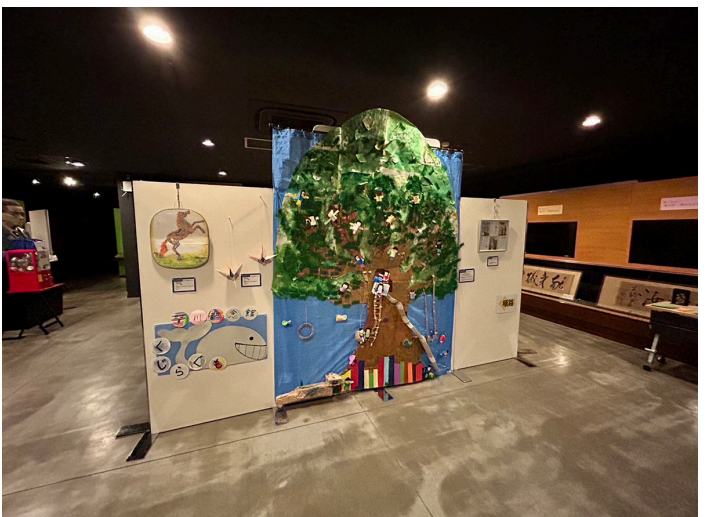
■「賀川記念館マルシェ」

賀川記念館マルシェに参加しました。マルシェでは、中学生が制作した作品を販売しました。賀川記念館マルシェが実施されることを伝えたところ、「寄附になるの？それはいいね!」と子どもたち自ら制作に励んでくれました。作ってくれたのは、「ミニチュアの本」と「空の写真で作った葉」です。全て手づくりの作品で、お客さんにも大好評でした。その他、ステージなども楽しみました。久しぶりに賀川記念館のイベントに参加ができ、子どもたちも楽しかったようです。

■「魂の絵画展」

「第三回魂の絵画展」にも参加しました。今回は二度目の作品展示となり、くじらぐもの子どもたち全員での合作となりました。職員と子どもたちで全体イメージをきめ、みんなが集まる大きな木を作成し、子どもたちがそれぞれ自分の人形を作り、大きな木の様々などところで遊んでいる様子を創りました。個人で作品展示をした子どももいます。また、今

回の魂の絵画展のために作られたシンボルアートの壁画作りにも参加しました。壁画の上部がくじらぐもの担当で、大きな雲のクジラと気球が描かれています(次頁に写真掲載)。気球には子どもたちが乗っていて、いきいきとした表情をしています。Birth神戸には実物が飾られていますので、ぜひ見に来てください。(藤井航)



上 賀川記念館マルシェのために制作した「ミニチュアの本」「空の写真のしおり」
 下 第3回「魂の絵画展」の制作の様子。

第3回魂の絵画展～アートは世代、障害を越えて～



去る一二月一日～三日まで、「第三回魂の絵画展」アートは世代、障害をこえて」が賀川記念館、Birth神戸会場の2会場で開催されました。NPO法人Birth神戸(南本町通六丁目)、中央むつみ会、賀川記念館をはじめとする方が実行委員をする、地域の子どもたちや障がいがある方の作品展です。

今年で三回を数えます。今回、初めてクラウドファンディングに挑戦し、三六万六千円のご支援をいただきました。多くのご支援に感謝します。

また、今回は「賀川さんをみんなで描こうガチャガチャ企画」という特別企画を開催し、賀川豊彦の似顔絵を募集しました。九六点の似顔



絵の応募があり、そのうちの二九点をステッカーにし、ガチャガチャとして販売しました。(常設として、賀川記念館で継続して販売中。二百円)

地域のNPO団体と協働し、地域作りの一つの働きとしての実施ができたと感じています。

三日間で延べ約二〇〇名(そのうち魂の絵画展を見に来た方は、約一三〇名)の来場がありました。ミュージアムを目的に来られた方には、通常とは異なる設えにご迷惑をおかけしましたが、賀川記念館の地域における働きの一つを見ていただくきっかけになったのではないかと感じています。また、絵画展に来られた方にも、賀川豊彦の生涯や働きを知っていただく良い機会になった



と感じています。多くの方にご来場いただきありがとうございました。

今後も地域での働きのことを知っていただき、お支えいただきましたと思います。

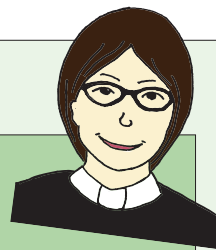
講演会・研修会のご案内

当館では研修会及び講演会などのご依頼をお受けいたします。

◎当館の研修は、「賀川豊彦の思想と実践」、「賀川記念館(イエス団)における社会福祉実践」、「現代社会における福祉課題」、「人権」など、ご希望に合わせた研修を実施させていただいております。

これまで、生活協同組合、労働組合、共済の各団体をはじめ、人権団体、大学などの研修・授業にもお使いいただいております。お気軽にお声かけください。

上内鏡子牧師の聖書の話



今日ダビデの町で、あなた方のために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。

ルカによる福音書 2:11

十二月といえばイエス誕生のクリスマス。賀川記念館にとっては特別の季節だ。なぜなら、賀川豊彦が神戸で献身した季節がクリスマスだったからだ。何よりも自分自身をクリスマスの贈り物として献げ、人々に仕える決心をされて、イエスに倣って生きる道を進まれた。

このイエスこそ、今回選ばれた聖句にある「救い主、メシア」である。この名称は、ヘブライ語で「油注がれた者」という意味だ。古代において油はあらゆる用途に使われていたが、特に油を注ぐという行為を伴って、特別な役割や任務を与えられた人を指すことが多かった。聖書の世界ではイスラエルの王であったダビデも油注がれた者であった。そののち時代を経て、地上の任務に加えて、世の終わりの時に救済者としてこの世に現れる救い主として待望された存在が「主メシア」とされた。

この思いは、イエスへと向けられている。イエスはこれまで期待されてきた世の覇者というイメージからは遠く、主の霊に満たされて、貧しい人に福音を告げ知らせる存在として、平和と愛の君として、人々に迎え入れられた。そのイエスが主メシアとして生まれたのが、クリスマスである。(〇)

とっておき

天国屋カフェのレシピ



甘納豆のケーキ

<材料>

薄力粉	150 g ~ 180 g
ベーキングパウダー	小さじ2
卵	2個
甘納豆	市販のもの
砂糖	1カップ
サラダ油	150cc
塩	1つまみ

<作り方>

- ① 薄力粉、ベーキングパウダーをふるう (★)。
- ② 卵に砂糖を加え混ぜる。それに、サラダ油を少しずつとろとろに加え、混ぜる。塩を1つまみれる。
- ④ そこにふるった粉 (★) を2, 3回に分けて入れてざっくりと混ぜる。
- ⑤ 型に流し入れ、170度Cで30分焼く。

市販の甘納豆で、いろいろな種類が三角の袋に入ったのがありますので、それを使うと楽しいです。このケーキはもともと、煮りんごをレーズン、シナモンを入れて焼くケーキのアレンジです。他のものを入れても良いと思います。それぞれアレンジを楽しんでみてください。(い)

◎編集後記

四年ぶりの「賀川記念館マルシェ」が開催された。予想をはるかに超える来場者に恵まれた。多くのボランティアや来場者と関わりながら、これまでの地域での働きが継続されていることを実感した。▼新型コロナウイルスは人と人との繋がりを分断した。「ソーシャルディスタンス」という言葉のもと、社会の繋がりが途切れてしまった人もいただろう。人と人がつながることが許されなくなったこの数年間、人は人がつながることがいかに重要であるかということに身にしみて感じる日々であった。また、私たちは何をしていくかを問われた数年間であった。▼賀川豊彦は「セツルメント活動の根本原理は人格交流運動である」と表現したという。人格と人格とが出会い、交流し、共に支え合いながら生きていくことを目指していた。これまで賀川記念館が行ってきた数々の取り組みも、人格と人格が出会い、地域の中で共に生きていくための活動であった。賀川記念館はこれからもその精神を引き継いでいきたいと考えている。▼「不易流行」。創立以来変わらぬ大切にしている賀川の精神と共に、新たなビジョンを掲げながら、賀川記念館の働きを継続していきたい。新型コロナウイルスによって分断された社会を繋ぎ直していくために、また地域を繋いでいくための拠点であり続けたいと願っている。これからも地域に仕える賀川記念館の働きを継続していきたい。(お)